

心をつなぐ

11月号もリレーの話でしたが、今回も引き続きリレーの遊びからです。

たんぽぽ組の子どもたちも運動会で年上の子どもたちの様子を見て、トラックでのかけっこを楽しむようになりました。そして、リレーのバトンにも憧れの気持ちをもったようです。そのような中、さくら組の子どもとたんぽぽ組の子どものリレーが始まりました。

さくら組の○ちゃんは、さくら組の友達と一緒にリレーと一緒に楽しんでいました。その中にたんぽぽ組の子どもたちがやってきました。なんとなく、バトンを持って走ればいいんだなとわかつたたんぽぽ組の子ども。スタートのところに何人も待っています。先生も「こっちで待っていればいいよ」とトラック内に促すのですが、走りたい思いで、なかなかうまく移動できません。そこへ○ちゃんが、「こっち」と言いながらたんぽぽ組の子どもの手を引いて誘導します。

また、白チーム(白の帽子)、色チーム(ピンクや青、黄色の帽子)と分かれているというさくら組の子どもたちの認識でした。バトンを持って走ることに思いがいっぱいのたんぽぽ組の子どもは、どちらのチームのバトンでも、走ってきた子どもが持つバトンに手を出しています。時には色チームなのに白いバトンを持って走り出します。そして、たんぽぽ組の子どもたちは、おかまいなしにバトンをもらおうと手を差し出して待っていました。先生もその場について、○ちゃんと一緒に子どもにどうすればよいのか、伝えたり、時にはトラック内で待っている子どもに並ぶように促したりしていました。○ちゃんもリレーに参加して自分の順番が来れば走るのですが、バトンタッチの場の混乱に気づきました。「あんな、こっちやねん」とたんぽぽ組の子どもの帽子を見て、色チームと白チームがそれぞれのバトンをもらうように知らせています。そして、バトンをもらう方向ばかり見ていて、バトンをもらったらそのまま逆方向に走りだす子どもにも、「こっちー」と教えています。

年長すみれ組の子どもたちが運動会で、力いっぱい走り、楽しんだリレー。それを見ていたさくら組の子どもたちは、すみれ組の子どもたちに誘ってもらってリレーの遊びを始めました。なんだかお兄さんやお姉さんになった気分も味わいながら、バトンを持って嬉しそうに走っていました。

その時に教えてもらったルールを今度は年下のたんぽぽ組の子どもたちに伝えていました。さくら組の子どもたちがすみれ組に教えてもらって、トラックを走ることが楽しかったり、バトンを持って走ることに嬉しかったりした経験があり、たんぽぽ組の子どもたちにも同じようにしていたのでしょうか。こうやれば楽しくリレーができるという遊びのルールを一人一人に伝えていました。ルールを守っていないからダメという捉えではなく、楽しく遊ぶためにはこうするんだという思いからの言動でした。

すみれ組の子どもたちは同じリームの仲間と力を合わせることや時には勝敗により仲間同士で葛藤することもありました。心を友達と共にすることの経験の一つとなりました。○ちゃんは、楽しさを味わうためにはこうすればいいという思いをたんぽぽ組の子どもに伝えていました。同じ学年同士や異年齢同士で遊びを通して、一人一人の心が繋がっていくことや豊かになっていくことに、改めて日々の遊びのもつ意義を感じたひとまでしました。